

緊急消防援助隊情報

令和4年度緊急消防援助隊近畿ブロック 合同訓練の実施結果について

広域応援室・近畿ブロック合同訓練実行委員会

令和4年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練は、内陸型の大規模地震が発生した想定で、緊急消防援助隊の出動体制、各部隊の活動能力向上および関係機関との連携活動能力の検証を実施するとともに、消防応援活動調整本部を主軸とした滋賀県および被災市町の受援体制の総合的な向上を図ることを目的とし実施しました。

1. 実施日

令和4年10月15日（土）・16日（日）

2. 実施場所

滋賀県長浜市、米原市

3. 訓練想定

令和4年10月15日7時30分、滋賀県北部の柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯を震源とする大規模地震が発生し、滋賀県長浜市および米原市で最大震度6強を観測、同地域に甚大な被害が発生。さらに、大型台風が滋賀県を通過し、記録的な長時間降雨の影響で、河川は増水、一部地域では氾濫が発生している。

滋賀県内消防機関は消防相互応援協定に基づき、県内応援隊を出動させたが、甚大な被害に対して県内の消防力のみでは対応が困難と判断し、緊急消防援助隊の応援要請を行いました。

4. 実施内容

(1) 消防応援活動調整本部等設置運営訓練

想定地震発生後に、滋賀県庁に消防応援活動調整本部を設置、長浜市および米原市を管轄する湖北地域消防本部に指揮本部、指揮支援本部および県内応援隊本部を設置し、応援要請等に係る情報伝達、受援調整及び緊急消防援助隊の部隊活動調整等について、ロールプレイング方式により図上訓練を実施しました。

《今後の課題等》

災害情報を漏らさず把握し、特に人的被害が大きい災害情報を適切に追跡することで、時期を逸することなく応援要請につなげることができました。

消防応援活動調整本部設置後は、関係機関との情報共有を図るための手段として、地図等を有効活用し、いかに「情報の見える化」を図ることができかが今後の課題です。

また、滋賀県災害対策本部との情報共有、適切な災害対応については、継続訓練が必要であると考えます。



消防応援活動調整本部設置運営訓練（15日）
滋賀県庁危機管理センター オペレーションルーム

(2) 県内広域応援部隊受援対応訓練

県内応援部隊の実動訓練により、緊急消防援助隊各府県大隊等との活動連携強化を図りました。

また、滋賀県独自の取組みとして、県内応援部隊が被災地消防本部の受援に関する支援活動を実施する「受援支援」の考え方を取り入れていることから、受援支援隊による各支援活動や指揮命令系統の確立を検証しました。

《今後の課題等》

緊急消防援助隊の災害現場への誘導や燃料補給車（無償使用車両）を使用した燃料補給訓練を実施し、県内応援部隊の受援支援活動が有効であることを確認しました。今後は、現地合同調整所等からのオーダーに対し、県内応援部隊が迅速に活動開始することができるよう、連絡体制の調整が課題となります。



トンネル内多重事故救出救助訓練（15日）
サテライト会場②



(3) 部隊運用訓練

指揮支援部隊長の部隊統制の下、被災した長浜市および米原市を指揮支援隊が担当し、地震被害を想定した各種訓練を各関係機関と連携して実施しました。

メイン会場では、中高層建物倒壊現場および橋梁倒壊現場で都市型救助を中心に訓練し、自然地形を利用した訓練会場では土砂・風水害を想定した訓練を実施しました。さらに、旧隧道を利用した多重事故想定訓練では、DMA T等関係機関との連携訓練を実施しました。各会場では現地合同調整所を設置し、県内広域応援部隊、府県大隊、航空隊及び関係機関が連携して情報共有を図る統括的な指揮活動を実施しました。

また、水陸両用車等多数の消防庁無償使用車両の災害対応力について検証するとともに、国土交通省近畿地方整備局ヘリ等のヘリテレ、無線中継車及びドローンによる映像送受信訓練を実施しました。

《今後の課題等》

メイン会場では、隣接地域で複数の災害現場が発生し、当該地域を包括する合同応急救護所を設置する想定で救急中隊の切り離しを実施した結果、他機関との連携を含め、円滑な活動を実施することができました。

無線の不感や携帯電話の混線により、指揮支援本部と現場活動部隊との連絡体制が確保できず、指揮命令に時間を要したことや、進出拠点に到着した部隊の待機時間が長くなったことなど、適切な指示が迅速に届くよう、連絡体制の確保について課題が残りました。



大規模土砂災害救出救助訓練（16日）サブ会場

(4) 後方支援活動訓練

宿営訓練会場では、支援車Ⅰ型及び拠点機能形成車両等を活用したほか、汚染・感染予防を考慮した後方支援訓練を実施しました。また、滋賀県が協定を結ぶ民間企業との連携として、災害時の飲料水提供訓練も実施しました。

さらに、コロナ禍における宿営訓練として、参加府県に対し事前アンケート調査を実施し、訓練2日目の午前中に外来講師を交えた研修を実施し、アンケート結果の共有、参加機関との意見交換を行いました。

《今後の課題等》

限られた場所での感染症予防対策や、保健衛生面を考慮した活動隊員の休息をいかに効果的に実践することができるかが必要と考えます。



後方支援活動訓練（15日）長浜キヤノン株式会社

5. おわりに

今回の訓練は、災害情報の収集および集約により、適切な時期に必要な応援要請を判断し、滋賀県の受援体制を構築することができるかを第一に図上訓練を計画し、図上訓練の後半は、実動訓練と連動することで、指揮命令系統に沿った部隊の掌握、円滑な部隊運用を行うことができるかを検証しました。

また、緊急消防援助隊の受援支援として県内広域応援部隊の活動訓練を実施し、結果として有益であることを確認できた半面、課題も明らかとなり、実災害への対応に向けた大変有意義な訓練であったと考えます。

今後、今回の訓練で得られた成果や課題等を踏まえ、緊急消防援助隊の応援体制の更なる充実強化に努めてまいります。

最後に、本訓練開催に際しまして、多大な御協力を賜りました近畿ブロック各府県、参加各消防機関及び関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。

問合せ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室
TEL: 03-5253-7569 (直通)